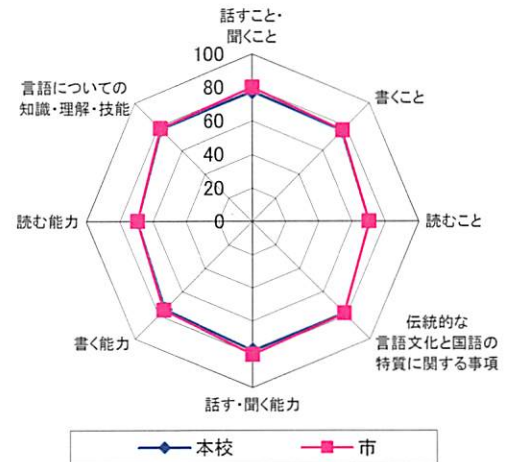


宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	77.7	80.1	77.9
	書くこと	76.6	76.8	65.3
	読むこと	70.4	70.3	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.1	78.3	74.3
観点別	話す・聞く能力	77.7	80.1	77.9
	書く能力	74.8	75.6	64.2
	読む能力	69.3	69.2	65.4
	言語についての知識・理解・技能	78.1	78.4	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

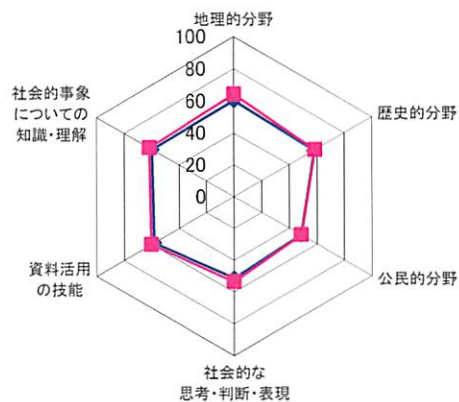
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	宇都宮市の正答率より2.4ポイント下回っている。 ○話の内容を正確に聞き取る設問、意見の述べ方の共通点を聞き取る設問の正答率は、9割以上と高い。 ●互いの発言を検討して自分の考えを述べるといった記述式の設問の正答率は、5割以下と低い。	・授業において、ペアやグループでの話し合いや、意見発表など、様々な場面を想定した言語活動を取り入れる。その際、相手の考えに対して自分の意見を持つことを意識させていく。 ・聞き取る際のメモの取り方の指導など、相手の話の要点を的確に捉えられるようにするとともに、聞き取りテストは今後とも継続して実施していく。
書くこと	宇都宮市の正答率より0.2ポイント下回っている。 ○指定された字数で、自分の考えを明確に書く設問の正答率は、8割以上と高い。 ●社会の生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめる設問の正答率は、5割以下と低い。	・読むことの授業とも関連させ、文章の構成を意識させたり、要約をさせたりして、効果的な表現ができる力を身につけさせる。 ・書くことに抵抗のある生徒を減らすため、書く機会を意識的に増やし、自分の考えを言葉として表現する力を育てる。 ・社会における問題に興味関心を持たせ、そのことに関して理解し、さらに自分の意見を持てるよう指導の工夫を行う。
読むこと	宇都宮市の正答率より0.1ポイント上回っている。 ○文章の展開に即して内容を捉える設問の正答率は8割以上で、宇都宮市の正答率より4.4ポイントと上回っている。 ●文章の展開に即して要旨をまとめる設問の正答率は、5割と低い。	・書くこととの授業とも関連させ、豊かな描写や段落構成を意識させる。 ・文章の表現描写に着目させ、その効果や作者のねらいなどを考えさせて読ませる。また人物の心情を読み取る際には、裏付けとなる表現や人物の言動などに着目させ理解へとつなぎ、更なる力の育成を目指す。 ・読書指導を継続するとともに、良書を選べる力を身につけることを目指す。 ・文章を読み取る際の基礎となる語彙力を高めさせるため、辞書の活用を習慣化させていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	宇都宮市の正答率より0.2ポイント下回っている。 ○漢字の読み書きの設問の正答率は、8割と高い。また、現代仮名遣いに直す設問の正答率は、96.6ポイントとかなり高い。 ●文法の用言に関する設問の正答率は、5割以下と低い。	・授業において、定期的に行っている漢字の小テストを、今後も継続して行う。 ・古典の基礎となる音読をすることや、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書くことの活動時間をしっかりと確保し、苦手意識の軽減を図る。 ・文法に関しては、学習した知識を定着させるために、復習の時間を設定したり、理解が曖昧な生徒には個別指導を行ったりする。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	60.3	64.1	57.5
	歴史的分野	57.9	58.4	52.8
	公民的分野	48.3	48.5	40.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	51.2	53.6	47.5
	資料活用の技能	58.1	60.3	53.3
	社会的事象についての知識・理解	59.8	61.8	55.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



● 本校 ● 市

★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

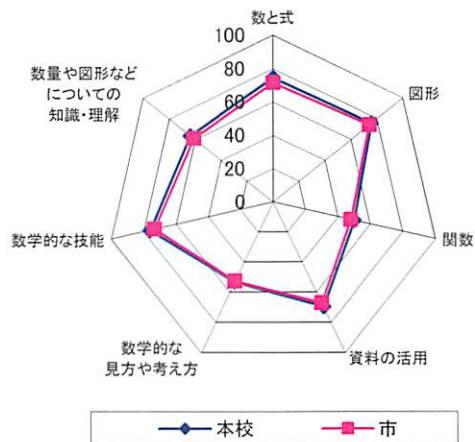
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ●市より正答率が3.8ポイント下回っている。 ●短答式で、ロシアを正答とする問題では、正答率が市を大きく下回った。 ●選択式では、10問中9問、正答率が市を下回った。 ○大問3の「日本の工業地域における課題解決について、複数の資料をもとに探求し、表現する問題」では、正答率が市を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「資料活用の技能」向上のため、資料の読み取りの際、分布や変化・推移等の視点を明示し、ICT機器(デジタル教科書・拡大投影器等)を活用し、考察をさせる。 ・「地球の姿」・「世界から見た日本の姿」の学習では、諸地域の特色を象徴する資料を提示し、地形・災害・人口・資源等の特性を把握させ、他地域との共通性や相違性を認識させる。 ・「日本の諸地域」の学習では、複数資料の提示により、自然環境(地形・気候)・産業等についての理解を深化させる。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ●市より正答率が0.5ポイント下回っている。 ●短答式で、株仲間を正答とする問題では、正答率が市を大きく下回った。 ●選択式では、9問中5問、正答率が市を下回った。 ○大問4の「西暦と世紀の表し方を理解する問題」では、正答率が市を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会的な思考・判断・表現」向上のため、言語活動(話し合い活動・討論等)の実践を継続し、言語はもとより、文章表現での取組も継続する。 ・「古代までと近世の日本」の学習において、時代ごとの特色を他の時代との比較を通して考察させる。政治・社会・文化・産業・人物の業績等、各時代を象徴する社会的事象に注目させ、史実を把握させる。
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> ●市より正答率が0.2ポイント下回っている。 ●短答式で、公共の福祉を正答とする問題では、正答率が市を大きく下回った。 ●記述式で、「様々な新しい人権が認められるようになった背景について、説明する問題」で、正答率が市を下回った。 ○大問7の「社会権の種類を理解する問題」では、正答率が市を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会的事象についての知識・理解」向上のため、学習課題の明示や小单元ごとの振り返り活動の重視、定期テストの有効活用等の方策を促進する。事象の表層的な理解ではなく、事象間の相関、因果関係にも留意させ、理解を深化させる。 ・「私たちと民主政治」の学習において、日本国憲法や基本的人権等について、内容を十分に理解した上で、文章で表現する学習を充実させる。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	74.6	71.5	66.8
	図形	75.5	73.8	70.4
	関数	49.8	47.8	41.6
	資料の活用	69.5	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	53.2	52.8	45.8
	数学的な技能	76.0	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	63.8	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

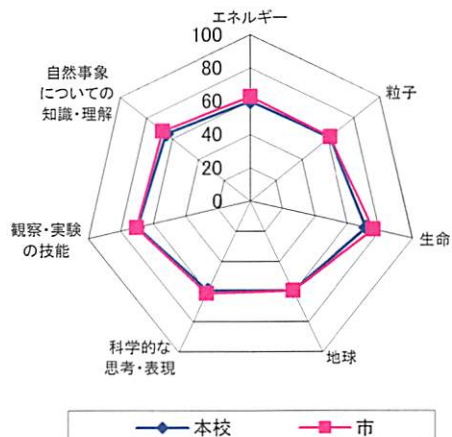
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○宇都宮市の正答率より3.1ポイント上回っている。 ○計算の問題では、おおむね市や全国の正答率を上回っており、基礎が身についている。 ●文章から式を立てる問題では、市の正答率を若干下回っている。	・方程式の文章題などの応用の問題について、多くの問題に触れさせていくと共に、習熟度に分けた少人数学習を利用し、レベルに合わせて習熟を図る。
図形	○宇都宮市の正答率より1.7ポイント上回っている。 ○図形に関する問題では、おおむね市や全国の正答率を上回っており、基礎が身についている。 ●三角形の相似条件を選ぶ問題では、市の平均正答率を若干下回っている。	・いろいろなパターンの証明問題に触れさせ、図形の見方を身につけさせる。その際、習熟度別に分けるなどして、レベルにあった問題に取り組ませる。
関数	○宇都宮市の正答率より2.0ポイント上回っている。 ○活用の問題でも、市の平均を上回っており、数学的な見方や考え方の身につけている生徒が多い。 ●1年次の既習事項である関数についての問題では、市の平均値を約3ポイント下回っている。	・1、2年次の学習内容を、授業の最初に小テストするなど復習し、既習事項の定着をはかる。
資料の活用	○宇都宮市の正答率より2.4ポイント上回っている。 ○中央値が含まれる階級を選ぶ問題では、市の平均値を約7ポイント上回っている。	・グラフやヒストグラムの特徴から読み取れることを、言葉で説明する問題を用い、主体的・対話的な活動を生徒にさせながら深い学びを感得させるように授業に取り入れる。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	60.0	62.7	57.6
	粒子	61.2	61.5	57.7
	生命	71.4	75.8	72.1
	地球	59.1	59.0	45.0
観点別	科学的な思考・表現	59.2	61.0	54.8
	観察・実験の技能	69.9	70.4	64.1
	自然事象についての知識・理解	64.9	67.6	62.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

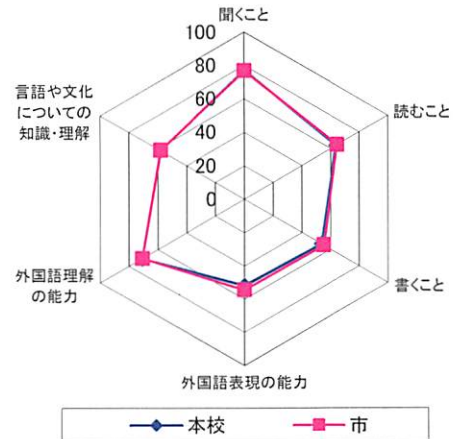
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市より2.7ポイント低い正答率である。 ●電流計のつなぎ方に関する問題が市より11ポイント低い。また、電圧と電流のグラフから2個の電気抵抗の接続の仕方を求めるオームの法則の問題も誤答が多かった(−6.2ポイント)。 ○斜面を降りる台車のテープ記録から平均の速さを求める計算は市よりできた。(＋3.9ポイント) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1年の電流に関する学習」の理解が不十分であるので、①電流計・電圧計の操作方法、②オームの法則とグラフに関する学習を再度指導し、理解の定着を図る。
粒子	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市とほぼ同じ正答率である。 ●鉄・アルミニウム・銅の分類に関する誤答が多かった。(−6.1ポイント)また、鉄と硫黄の化学反応に関しても理解が不十分である。(−6.4) ○塩化銅の電気分解に関する問題は、市平均より高かった。(＋7.5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1年の金属の性質」を再度指導したうえで、練習問題を使い、未知の金属が同定できる力を付けたい。 ・「2年の化学変化と原子・分子」では、鉄と硫黄の化合物の実験操作、およびその結果を視聴覚資料等を活用して指導し、理解の定着を図る。
生命	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市より4.4ポイント低い正答率である。 ●胞子でふえる植物のからだのつくりやシダ植物の仲間について理解が不十分である。(−8.1) ●生物の発生、特に胚の成長に関して理解が不十分である。(−5.0) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1年の植物の仲間」に関して、胞子でふえる植物に焦点をあてて、理解の定着を図る。 ・「3年の生物の発生」に関して同様である。
地球	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市とほぼ同じ正答率である。 ○地層に関しては市より高い。(＋6.1) ●気象では「気団と前線」、「日本の季節による天気図の特徴」の理解が不十分である。(−6.0) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年の気象に関しては、3つの気団の特徴について、気団のできる地理的環境を十分に理解させたうえで、日本の代表的な気圧配置を学習し、理解の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	77.1	76.8	73.1
	読むこと	63.9	64.5	59.9
	書くこと	53.6	55.3	59.7
観点別	外国語表現の能力	51.8	54.5	59.0
	外国語理解の能力	71.1	70.9	65.9
	言語や文化についての知識・理解	58.2	58.2	60.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	宇都宮市より0.3ポイント高い正答率である。 ○対話の内容、英文の要点の聞き取りは良好である。(＋3.3ポイント以上) ●対話の内容を聞き取り、canを用いて適切に応答すること、代名詞を用いて職業を答えることに課題が見られる。	・対話文の聞き取りでは、2人の話者の間で何が話題になり、話がどのように流れているのかを指導する。選択肢から推測できること、傾聴すべきポイントを把握させることで、理解を深める。
読むこと	○ブログの内容を理解し、日常場面におけるコミュニケーションのあり方を考えることができる。(＋9.4ポイント) ●長文読解の「my ideaの指す内容を把握する」では、市平均より低かった。(－7.5ポイント) ●助動詞や不定詞といった語法の問題が、市の正答率より下回っている。(4ポイント以上) ●アクセントのないところに使われる母音を含む単語(again, worry)が市の平均正答率を下回った。	・同じ問題で長文の読み取りポイントを指導して、着眼点に気づかせ理解を図る。 ・ブログに書いた英文の対話を再度読み直し、問題の設定や、話している人が誰で、Butの後に話し手が主張していることは何かを把握させる。 ・間違いの多い英単語に関しては、辞書を引かせて発音も一緒に確認してから、書く練習をさせて定着を図る。
書くこと	宇都宮市より平均して1.7ポイント低い正答率である。 ●「情報に基づいて書く英作文」に関してふり返りを行ったところ、3人称単数現在形と資料の記号に関する理解が不足していた。(－6.3ポイント) ○現在完了の英文を書くことは、市よりできた。(＋7.5ポイント) ●「一番好きな季節」では、理由を含めた英文について最上級や接続詞を用いて説明する知識が不十分である。(－3ポイント以上)	・「情報に基づいて書く英作文」では、同じ問題を使って解き方の確認を行い、3人称単数現在形の知識などを指導する。 ・2年次で学んだ比較級や最上級の問題を取り上げ、知識の確認や定着を図る。 ・5文以上書く時に途中であきらめてしまう生徒に対して、話のつなぎかたを指導する。

宇都宮市立瑞穂野中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<p>・自主学習ノートの作成 (家庭学習の充実と継続を求めて)</p> <p>・論理的に考え、思考を深め合う学習</p>	<p>・自主学習ノートの活用 毎日1ページ以上を目安とした自主学習ノートを作成する。</p> <p>・学芸委員が自主学習ノートの提出状況を記録し、前期と後期の2回「自主学習優秀賞」の委員会表彰を行う。また定期テスト対策問題作成を行っている。</p> <p>・速く正確に読み取り、他の考えをきちんと聞き取り論理的に言語表現するなどの「共に学ぶ力の育成を目指した授業」を推進する。 目標の明確化と振り返り活動 研究授業を通しての授業改善 ミニ研究授業 等</p>	<p>「ふだん学校の授業以外にどれくらい学習しているか」の問いに対して1時間程度と回答した人数が2年生では33.0%であり、市の25.2%と8ポイント弱開きがあり、これは自主学習ノートをていねいに取り組むが質はそれほど高くないことを表していると思われる。自主学習ノートの内容の充実が課題である。</p> <p>・「授業でなかったことを自分なりにわかりやすくノートにまとめている」はすべての学年で宇都宮市より10%弱下回っている。このことから論理的に考え、思考を深める学習が足りないと思われ、指導を継続していく必要がある。</p>

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

基礎・基本的事項の理解を深めていくことと、そこからより発展的な内容へ取り組んでいこうとする姿勢とその環境を整え、準備していくことが大切である。具体的には例年課題となっている自主学習ノートの質の向上があげられる。どうしても「1ページだけやればいい」等の安易な発想から漢字練習や英単語練習に走りがちな生徒が多くなっている。これらの生徒が自分の進路実現のための学習の「きっかけ」となるようなノート作りをめざしていきたい。

定期的に国・県・宇都宮市の調査結果を分析し、対策を話し合うことにより、学習指導上の課題を組織的に解決していけるようにする。特に「主体的、対話的、で深い学び」になるよう授業改善に力を入れる。